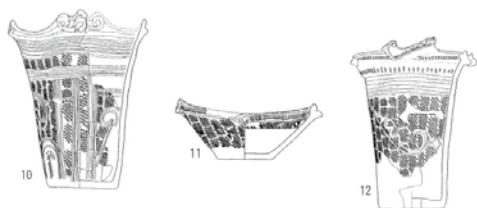


シリーズ 縄文の風情 Wind of Jomon

国宝土偶「縄文の女神」が生まれた、縄文時代や縄文文化などをシリーズで紹介していきます。



深鉢形の縄文土器
(うきたむ風土記の丘考古博物館：蔵)



発掘された土器の図
(西ノ前遺跡)

【縄文時代】

明治10年、アメリカ人のE.S.モースが東京都にある大森貝塚で発掘調査をした際、発見された土器に縄目の文様が多くみられました。その後、各地でよく似たタイプの土器があることが分かり、それらの土器をまとめて「縄文土器」と呼び、その種の土器が現れる時代を「縄文時代」と呼ぶようになりました。

縄文Q&A？

Q. 縄文土器の「模様」は何種類くらいあるの？

A. 「縄文」の模様は、縄の太さやねじれの方、ねじる回数で違った模様ができます。木や竹などの棒に巻きつけると、いろいろな模様ができます。ざっと数えて100種類くらいはあったのではないのでしょうか。縄のほかにも、貝や竹、木の棒、めずらしいものでは魚の骨が使われたものもあります。

今月の縄文の女神

1月14日、山形県立博物館で「冬の博物館まつり」が行われました。

この日は、昨年6月末から東京国立博物館やフランスへ出張していた「縄文の女神」が、半ばりに展示を再開するということで、セレモニーが開かれました。セレモニーでは「めがみちゃん」も出演し、会場を盛り上げました。



▼問い合わせ／
山形県立博物館
☎ 023(32)2111
FAX 023(32)2111

～2月の主な行事予定～

- 1日 小学校スキー記録会（舟形小学校）
立志式（舟形中学校）
- 6日 小学校1日入学（舟形小学校）
- 12～22日 保小中セーブメディア期間
- 23日 保育園1日入園（ほほえみ保育園）

明けましておめでとうございます。平成最後の新年はどのように過ごされましたか。1月も後半になり、また一段と寒さが厳しくなってきました。インフルエンザも猛威を奮っていますので、みなさん健康には十分注意しましょう。
(なお)

P.S

あとがき
postscript

